# 年中4歳児 「自分の絵本を見てほしい!」

失敗しても…大丈夫!

く自分で作った物を友達や教師に見せようとする姿>

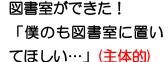
真似してみよう

12月13日~



「100階建ての本みたくしよう」(対話的) 「二人で一緒に描こう、10階建ての家だよ」 て!」(主体的)

「どんな本にしようかな~?」(深い学び)











## 遊びの経過・どのような姿が、どのようになって、一歩踏み出したと感じたか?

作ることが好きなくま組。一人でじっくり作り、教師が尋ねると何を作ったかを話すが、基本的には作って満足する姿が多い。ある日、数人が同じ場で絵を描いているうちに『10 階建ての家』の絵本を一緒に作ることになった。できた絵本をすぐにいろいろな教師に自分たちで見せに行き、他のクラスの幼児にも読んでもいいことを伝える。作った絵本をクラス全体で紹介したことで、「自分の絵本を見てほしい。」「読んでほしい。」と、次々と他の幼児も作り始める。

#### <見取った幼児の姿> →有効だった援助

#### 主体的

- ・作っている友達の様子や図書館にある手作り絵本、学級活動で教師が読んだ手作り絵本を見て、「自分も作りたい!」と次々に作り出す姿。
- →学級活動で一人ずつの絵本を紹介したこと、『くま組図書室』を作ったことで、友達が絵本作りを楽しんでいることを見て分かるようにした。

### 対話的

- 友達の作っている本を見て、同じような物を作ったり、自分の作った物を友達に見せようとしたりする。
- →友達が作っている物を真似できるように見やすい環境をつくる。作った物を友達に見せる時には、話が分か りやすいよう教師が仲立ちしたり、設置した図書室が幼児同士の対話の場になるようにした。

#### 深い学び

- 自分の経験や知っていることを描いたり、見たことのある絵本を真似したり、想像を働かせて考えてみたりして、絵本を完成させる。
- →作ったことをほめる、認める、教師が学級全体の前で取り上げるなどをする。何かの真似をしている物など も「これは、何と似てるね。」とそのままを認めるようにする。

#### 話合いから

## ●一歩踏み出すために有効だった援助は?

- ・絵本を作りたい子どもたちの気持ちを認めた。⇒絵だけでもよい。字は教師が書いてくれる。どんな内容でも大丈夫!⇒安心して取り組める。
- ・学級の中で作った絵本を紹介する。
  - ⇒友達や教師に褒められ、認められる経験。⇒嬉しい、満足!!⇒またやりたいという気持ちにつながる。
- 色鉛筆箱や図書室などの魅力的な環境の工夫。⇒使ってみたい、自分の絵本を置きたいという気持ちになった。

## ●この経験を次にどのような経験につなげていくか?

- ・絵本だけではなく紙芝居にするなど、形や内容を変えたりしながら広げていく。
- 写真を撮ったものを実物投影機で映すなどいろいろな道具を活用してみる。
- 本当の図書室に行く経験や本を読む楽しさを感じていけるようにする。



自分の作った本を置く。



学級の中に図書室をつくり、友達のしていることを見て分かるように工夫。



色鉛筆を色分けして選び やすくする、見た目も美しく ワクワクする様子

